

## ～地域包括ケア病棟から地域をデザインする～

発行元：地域包括ケア病棟“彩り”・リハビリ科・地域医療連携室

## 京都府看護協会主催 地域包括ケア病棟の研修会に参加して

## ～懐の深い駆け込み寺を目指して～



10月13日(土)、「地域包括ケア病棟が果たす役割」というテーマの研修会に参加しました。研修会の中で、地域包括ケア病棟協会会長 仲井培雄先生の講演がありました。講演の中で、「“ときどき入院、ほぼ在宅”の地域包括システムを支えるためには地域包括ケア病棟の役割は大きく、多岐に亘る」と教えて頂きました。また、回復期リハビリ病棟と異なり、入院の対象となる疾患や入院開始時期などの制限がなく、どのような方でも対象となるため、「懐の深い駆け込み寺」と、地域包括ケア病棟のことを表現されていたのが印象的でした。

山城南圏域では東部地域と西部地域で住民の方の年齢層や生活環境が大きく異なります。この地域ならではの特性やニーズ(要望)を踏まえ、より柔軟な姿勢で「懐の深い駆け込み寺」として地域を支えられる“彩り”を目指したいと思います。

(地域医療連携室 ソーシャルワーカー 中野 明子)

## ～傾聴ボランティア“うさぎ”さんの活動報告会に出向いて～



10月26日(金)、当院地域包括ケア病棟“彩り”で活動して頂いている、傾聴ボランティア“うさぎ”の方々を対象に、感染対策の研修会をさせて頂きました。病院における感染対策について講義させて頂いた後に、アルコール手指消毒剤を使用して手指衛生や、エプロン・手袋・マスクの着脱方法を実践して頂きました。蛍光塗料を使用して体を汚さずに手袋やエプロンを脱ぐことができるか試して頂きましたが、皆さんはじめてにも関わらず、ほとんどの方がきれいに脱ぐことができていました。30分間の急ぎ足での研修でしたが、大変熱心に研修会に参加して頂き、とても楽しい研修会になりました。(感染症看護認定看護師 大植 由紀子)

\*

感染対策の研修は新人研修で受けさせて頂いたことがありましたが、今回の研修に同行させて頂いて、知識はもちろんのこと、改めて感染対策に対する自身の意識を高める良い機会になりました。感染対策に取り組むことは、自分だけでなく自分の周りの大切な人を護ることに繋がります。



感染対策は“思いやり”。その言葉通り患者さんはもちろん、ボランティアさん、またそのご家族や周りの方々が安心して頂くために、今回の研修会がボランティアの皆さんの活動の際に役立てば、嬉しく思います。(事務局 主事 山下 友美)

## 第21回 相楽・認知症を学ぶ会に参加して（10月20日開催）

### ～退院前カンファレンスのロールプレイをして感じたこと～



ロールプレイに参加して感じたことは、実際のカンファレンスの場面で、患者さんやご家族には専門用語ばかりを使ってしまっていて、患者さんやご家族が話の内容を理解できず、おいてきぼりになっていたのではないかと感じました。その場に集まっている全員が同じことをイメージすることができ、情報を共有するために誰にでも伝わりやすい分かりやすい言葉で話をする必要性を改めて感じました。また、カンファレンスの場面において当院の医師と在宅医の先生が患者さんの病状や申し送り事項などについて直接話し合う機会が多くありませんが、医師同士がお互いに直接、情報交換することができれば、患者さんやご家族が、さらにより良い医療・介護を受けることが可能になるのではないかと感じました。

在宅介護はご家族にとって覚悟が必要で、不安も大きいため、多職種でカンファレンスを行うことにより、在宅でのより良い生活が送れるよう今後も精一杯努力していきたいと思えます。

（リハビリ科 理学療法士 橋詰 あや 言語聴覚士 田中 ゆかり）

### 地域医療連携室より

#### ～“生き方”に寄り添って～



後輩より、諏訪中央病院の名誉院長の鎌田實先生の著書「がんばらない」を借りました。若くしてがんで亡くなった青年や安らかに自宅で逝ったおばあちゃんの話など、個々の患者さんの“生き方”がありありと描かれていました。患者さんがご自身の“生き方”を貫くことができたのは、一貫した“患者さんの生き方に寄り添う医療”、すなわち、“医療者の考えを押し付けない医療”の実践があったからこそだと思います。また、鎌田先生が諏訪中央病院に赴任し、現在の諏訪中央病院を築き上げるまでの話では、地域住民と様々な交流を通じて、“地域から必要とされる病院”という地位を築き上げられた様子が描かれていました。著書の中で時折、諏訪中央病院がある長野県茅野市の風景が目浮かぶような記述が挟み込まれていて、10年程前の秋、府外研修で諏訪中央病院を訪れた際、諏訪中央病院周辺の冷たく澄んだ空気と、紅葉がとても綺麗だったことが昨日のこのように思い出されます。

\*

11月10日（土）、当院中井院長が副学長の第27回京都府国保地域医療学会が京都市内で開催され、当院から多くの職員が参加しました。午後から鎌田先生の講演があり、日頃から患者さんの“生き方”に寄り添っておられる鎌田先生ご自身の“生き方”をほんの少しですが、触れさせて頂くことができました。そして、私自身が日々のケースワークを通じて、患者さんの“生き方”に寄り添うってどういうことなんだろうと改めて考えました。「すぐに結論を導くのではなく、患者さん（ご家族）が悩まれる過程を一緒に共有し、伴走すること」でしょうか。なかなかすぐに答えは出そうにありません。答えが出た時、私自身の“生き方”が見つかるときなのかもしれません。

（地域医療連携室 室長 南出 弦）